

# 役に立つかもしれないシリーズ 7「諸法実相」と「諸法無我」

第 26 代名古屋名駅ロータリー 会長 藤井圓隆（天台宗大黒寺住職）

先回、「必死」ということをお話いたしました。これは、今この一瞬を如何に大切に生きるかの裏返しであります。それでは、天台では今この世の中をどのように捉えるかと言いますと、それは諸法（あるがまま）が実相（真実）であると言います。

すなわち、例えば、この地球には今、70 億人以上の人間が生きておりますが、このすべての人々が、自分の意志でそれこそ一瞬一瞬必死で生きておられるわけですが、その集積が歴史であります。この 70 億人のうちの、一人があなたであり、また一人がプーチンであり、メイであり、メルケルであり、トランプであり、習であり、安倍さんであるわけですが、70 億の人々のすべての一瞬一瞬の行動の集積が、世界の一日の出来事であるわけです。すなわち、すべての人間の万般の動きが摩訶不思議にお互いに絡みあって、世の中が動いている、それがそのまま真実である、ということです。

天台は、この真実を受け容れます。どうしようもないことは、これは受け容れざるをえない。そして、次はどうするかを考える、これが天台の立場であります。

このような立場は、一部からあまりにも宗教的な規範性に欠けるというような批判もあります。いま、殺人者がいて自分の眼前の人をナイフで刺して殺そうとしている時、咄嗟に、助けようとして制止したら刺されて自分が死んでしまう場合、これは逃げる方がいいのか、どっちがいいのかというと、一般的な宗教人は、それは、結果はどうあれ救いの行動をとるべきであろうと言うのが普通と考えられます。

しかし、ここで、どちらでもいいというのが天台です。それは、あまりにも宗教的な規範性に欠けるというのでありますが、ありのままのすべての現実を受け容れる立場であります。ちょっと極端な例をあげましたが、すべてをそのまま受け容れるという立場です。



（天台宗寺門派実相院の中庭：秋）

一方、「諸法無我」ということがあります。これは、前述のすべての出来事は、これは「空」であるということです。無我は空と同義です。したがって「諸法空相」ともいいます。主体的な行動は本来ないということですが、これはまず、説明する前に、「空」とは何ぞやということを解明しなければなりません。これがまた厄介なことではありますが、よく「空」は「無」と間違われますが、「無」ではありません。

「無」は何もないことを無というわけですが、「空」は無ではありません。なにかあるので「無」ではないのです。そのなにかとは「縁起」です。縁起があるから、無ではありません。それでは、